

2019年4月1日より、三井生命は大樹生命に社名を変更しました。

2019年12月6日

「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」提言への賛同について

大樹生命保険株式会社（代表取締役社長 吉村 俊哉、以下「当社」）は、金融安定理事会（以下「FSB」）により設置された気候関連財務情報開示タスクフォース（Task Force on Climate-related Financial Disclosures、以下「TCFD」）の提言へ賛同しました。

当社は、社会の一員として地域の環境保全に貢献するとともに、良好な地球環境を次世代に引き継ぐため、「環境配慮に関する基本方針」を定め、環境保護活動に取り組んでいます。

具体的には、「大樹生命のCSR三本柱」のひとつとして「社会・環境」を重要領域と定め、「苗木プレゼント」等の環境保護活動を行うだけでなく、「グリーンボンド」などへのESG投資を通じて機関投資家としても環境問題に取り組んできました。今回のTCFD提言への賛同は、こうした当社の環境問題への取り組みや、SDGsの達成に向けた取り組みの一環として行うものです。

今後、当社はTCFDの提言を踏まえた気候変動に関する情報開示を充実させていくことで、CSR経営の更なる推進を図っていくとともに、持続可能な社会の実現に向けて貢献してまいります。

<TCFDについて>

Task Force on Climate-related Financial Disclosures の略で、G20 の財務大臣・中央銀行総裁からの要請により、2015年12月にFSBのもとに設置されたタスクフォース。

2017年6月に、投資家の適切な投資判断のため、気候変動にかかる「リスク」および「機会」が財務にもたらす影響を自主的に把握・開示することを促す提言を公表。

以上